

香島津

〔萬葉集十七〕能登郡○能從香島津發船行於射能來村往時作歌二首  
登夫佐多底船木伎流等伊布能登乃島山今日見者許太知之氣思物伊久代神備會  
香島欲里久麻吉乎左之底許具布禰能可治等流間奈久京師之於母保由○中

右大伴宿禰家持作之

播磨國  
宇須伎津

〔播磨風土記 揖保郡〕宇須伎津右所以名宇須伎者大帶日賣命○神功皇后将平韓國度行之時御船宿於  
宇伎○伎字 頭川之泊自此泊度行於伊都之時忽遭逆風不得進行而從船越越御船御船猶亦不得

進乃追發百姓令引御船於是有一女人爲資上己之負子而墮於江故號宇須伎○波新辭伊須久

室津

〔夫木和歌抄二十六〕むろつ 播磨  
〔書言字考節用集 乾坤〕室津播磨揖保郡

〔散木弄詞集 悲歎〕むろにまかりて日のあれければ日來ありてよめる、

あさましやむろはうきつとき、しかどしづみぬる身の泊也けり

むろには日ごろとまりてたま〜いで、こぎ行程になごろなをたかして、こぎもど  
るを見て、

なごろにはこぎもどりけりあはれわがわかれの道にこちもふかなん

〔玄輿日記〕文祿五年七月十日薩州鹿兒島より近衛前左大臣信輔公御歸洛也○中 十日○八 備後

ともの浦へ著給ふ夫よりは順風も心のまゝにて播磨の室の津に御著也、

○按ズルニ室津ハ又室泊トモ稱ス泊篇ヲ參看スベシ、

周防國  
佐婆津

〔豐後風土記 速見郡〕昔者纏向日代宮御宇天皇○景 欲誅玖磨噲啖行幸於筑紫從周防國佐婆津發  
船而渡泊於海部郡宮浦、

〔豐後風土記 國崎郡〕昔者纏向日代宮御宇天皇御船從周防國佐婆津發而度之遙覽此國勅曰彼所